

科目名	公法演習			ナンバリング	RPP261	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	集中(後期)	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	和足憲明	担当教員					

授業の概要	本講義では、学生が行政学の基本的教養を身に付けることを目的とする。 行政学について、「地域公共政策の基礎」「地域行政論」で学んだ知識を確実なものとし、その知識を応用できるようになることを目的とする。 「地域公共政策の基礎」「地域行政論」で学んだ内容を復習した上で、実際の公務員試験の問題を解いていく。						
到達目標	1. 行政制度及び行政学について基本的な知識を身に付ける。 2. 受講者が自分なりの視点で政治現象を理解できるようになる。 3. 公務員試験に合格できるだけの知識を身に付ける。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	【勉強方法】1. 授業前に、テキストの次回授業の該当箇所を熟読する。 2. 授業内での説明、自分で調べたことを配布したレジュメに書き込む。 3. 書き込みをしたレジュメと、テキストを熟読する。 【事前に履修しておくことが望ましい科目】政治学入門、政治学、地域公共政策の基礎、地域行政論 【履修する上で求められる知識】中学・高校で学んだ公民の知識、政治学の基礎知識						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 行政学におけるキーワードについて説明できる。 2. 行政学に関する社会現象と、それに関連するキーワードを結びつけて、考えることができる。	1. 行政学のキーワード間の関係を理解した上で、概説することができる。 2. 行政学のキーワードを使用して、社会的事象を説明できる。 3. 学んだ行政学の知識を使って、公務員試験の問題を解くことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
中間確認テスト	○	○					35%
最終確認テスト	○	○					35%

課題、評価のフィードバック	1.毎回の小テストは、次授業の冒頭で解説を行う。
---------------	--------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	講義全体の流れの説明。	
	第2回	行政学の基礎概念:官僚制	官僚制論、官僚制の実態について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第3回	行政組織の基本原則	ラインとスタッフなど行政組織の構成原理について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第4回	日本の行政組織(1)	内閣、1府12省庁体制など日本の行政組織について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第5回	日本の行政組織(2)	行政委員会、審議会など日本の行政組織について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第6回	行政管理法と行政改革	行政管理法と行政改革について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第7回	予算管理	日本の予算サイクル、予算の準備過程、予算の執行過程、予算の決算および政治的統制過程について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第8回	中間まとめ－第1回～第7回までのまとめ	第1回から第7回までの復習・要点整理を行う。 第1回から第7回までの理解度の確認試験を行う。	
	第9回	政策過程論	政策の概念、政策決定の理論、利益団体と政策形成、政策実施と政策評価について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第10回	行政統制論と行政責任	行政責任論、ギルバートのマトリックス、日本の外在的・制度的統制、民衆による行政統制、オンブズマン制度について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第11回	地方自治概論	地方自治の類型、諸外国の地方自治について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第12回	日本の地方自治	日本の地方自治の現状、日本の地方自治の歴史について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第13回	行政学説史(1)	行政学の歴史、行政学の理論について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第14回	行政学説史(2)	科学的管理法・古典的組織論など組織理論について、論点整理と復習をした上で、実際の公務員試験の問題を解き、解説する。	
	第15回	最終まとめ－第9回～第14回までのまとめ	第9回から第14回までの復習・要点整理を行う。 第9回から第14回までの理解度の確認試験を行う。	
	試験	定期テストは実施しない。		
授業の進め方		授業内では講義と質疑応答という形で進める。 講義後にはその日の講義について理解度を図る小テスト(参照一切不可)を実施する。 (約10分程度)		
授業外学習の指示		授業前にテキストの次回授業の該当箇所を熟読すること。授業後は、配布資料を中心に講義の内容を復習する。 不明点は教科書や、manab@にアップしたコメントカードへの返事を読む等をして、不明点を解消すること。 関連する公務員試験の問題を解いてみることもお勧めする。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	資格試験研究会編(2018)『新スーパー過去問ゼミ5 行政学』実務教育出版1,836円。
参考書	なし。
参考URLなど	なし。
その他	連絡や資料の配付等にはmanab@IMUを使用するので、各自設定をすること。 公務員試験受験者を対象とする。「地域公共政策の基礎」「地域行政論」を修了していることが前提である。 受講態度:「質問・発言・発表」は加点、「授業妨害行為」は減点となる。

演習内テスト・ループリックル

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	小テスト	正答率100%	正答率50%以上100%未満	正答率50%未満。
2	中間確認テスト	正答率90%以上	正答率60%以上90%未満	正答率60%未満。
3	最終確認テスト	正答率90%以上	正答率60%以上90%未満	正答率60%未満。
4				
5				
6				
7				